

第7回

東大和市社会教育委員会議 会議録

平成30年11月20日（火）

平成30年第7回 東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 平成30年11月20日（火）午前10時～午前11時50分
- 2 場 所： 市役所会議棟第5会議室
- 3 出席委員： 荒川 進、杉本誠一、柳沢明、外池武嗣、大月孝彦、金山幸子、
森脇千春、佐伯あつ子（8人）
欠席委員： 松村正博（1人）
- 4 事務局： 佐伯課長、國森係長、手塚主事（3人）
- 5 内 容：
 - （1）議題
 - ① 研究テーマについて
 - （2）その他
 - ① 第48回関東甲信越静社会教育研究大会について（出席委員の報告）
 - ② 都市社連協交流大会の出欠確認等
 - ③ 次回会議日程について
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： なし

<会議内容>

○荒川議長 ただいまより「平成30年度第7回東大和市社会教育委員会議」を開催いたします。よろしくお祈いします。議題に入る前にお手元の資料の確認をさせていただきます。事務局お祈いします。

○手塚主事 それでは資料の確認をさせていただきます。まず1枚目が「平成30年度第7回東大和市社会教育委員会議次第」でございます。続きまして資料1「東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会開催のお知らせ」でございます。その他配布資料として、こうみんかんだより、来年度の第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会のチラシを配布しております。埼玉大会のチラシは、先週の長野大会でも配布されたため、不参加だった方のみお配りしております。あとは第55回東京都公民館研究大会のチラシを配布しております。以上が配布資料となりますが、漏れはございませんでしょうか。それではよろしくお祈いいたします。

○荒川議長 よろしいでしょうか。課長の一言ご挨拶をお祈いします。途中で退席しますのでよろしくお祈いします。

○佐伯課長 みなさん改めましておはようございます。日頃から社会教育委員会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。また、先日は第50回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会にご参加いただきました、議長、副議長、金山委員は一日お疲れさまでした。ありがとうございます。また、今日のこの後のお話の中でも、触れていただけるのかなと思っておりますので、よろしくお祈いいたします。市のほうも、いろいろ社会教育の活動も進めておりまして、今は12月2日にロードレース大会、また年明けの1月14日には成人式、また3月21日に多摩湖駅伝ということで、行事、イベントのほう、また合わせて準備しておりますので、また皆様のほうにも情報提供していきたいと思っておりますので、よろしくお祈いいたします。今日はまた、会議よろしくお祈いいたします。以上です。

○荒川議長 ありがとうございます。議題1が研究テーマですけど、資料について最初触れて、わからないところ、質問等していただければと思いますので、順序を入れ替えたいと思います。資料1、これについて何かありますか、お祈いします。

○手塚主事 こちらは毎年12月に行われている交流大会のお知らせでございます。日時については、平成30年12月15日土曜日午後1時45分から、場所は武蔵野市の武蔵野公会堂ホールでございます。その後希望される方については懇親会もでございます。懇親会は5時半から7時までの予定です。都市社連協への回答が12月3日までとなっておりますので、今月の27日ぐらいまでに出欠をご連絡いただければと思いますが、もし、現時点で出欠がもう既にお分かりの方は、この場でお伺いしたいと思います。

○荒川議長 第2ブロックということですよ。12月15日土曜日1時45分から。懇親会は、私は出るつもりでいますが、無理にというわけでもありませんが、交流会のほうへは研修という意味で予定が付けば参加をいただければありがたい、そんなことを思っています。出席取っていいですか、じゃあちょっと確認して。

○手塚主事 出席される方は、外池先生と森脇さんと、金山さんと柳沢さんと議長で、はい。

○荒川議長 都合が付けばぜひご参加いただきたいということで。ありがとうございます。中身について何かありますか。集合場所はどうしますか。

○手塚主事 場所は、吉祥寺の公園口から徒歩3分するかしないかぐらいなところなので。

○荒川議長 会場でいいですかね。

○手塚主事 会場で13時20分ぐらいにお願いいたします。

○荒川議長 よろしいですか。

- 手塚主事 この資料で懇親会の会費が記載していないのですが、懇親会も出たいと思われている方はこの中でいらっしゃいますか。
- 荒川議長 出たいと思っているわけではないけど。
- 手塚主事 すみません、議長のほうには問い合わせをして会費についてお知らせいたしますので、議長は懇親会も出席されるということで、かしこまりました。
- 荒川議長 出たい方はどうぞ。
- 手塚主事 すみません、失礼いたしました。
- 荒川議長 資料1はそこまでしておきましょう。こうみんかんだより、何かありますか。家庭に既に入っているものですかね。今の研究事業で関係ありそうなのが、裏側の一番下の誰でもサロンとこういうところですよ。これも真面目に見ないと目に入らないので。次の公民館研究大会、東大和市中央公民館ホールで開かれるものですが、これが無料というわけではない、参加費は1000円左下に書いてあります。社会教育のこの間の長野の研究大会、公民館活動がすごく盛んになっているので、戦後民主主義の学習の場というか、拠点のような施設が中央公民館なのですが、この都の公民館研究大会の社会教育を我々が中心を担っているのですが、全く無関係でいいのかという気がするのですよ、正直言いますとね。あまり連絡も無くて、このチラシを見て、なんだ、地元でやるのだと思ったんですけど、役所としてどういうふうにこれは捉えているのですか、この社会教育課としては。
- 金山委員 これは東京都のだからたくさんいらっしゃるのでしょうか、中央公民館。こういうの初めてですよ。
- 荒川議長 回っているのでしょうか。地元で開かれるからチラシが我々の手元に来ているので。
- 金山委員 ほかもやられているんだ。
- 荒川議長 やっているのだと思いますね。
- 金山委員 今までやられていたのかもしれないけど、初めて。東京都の公民大会なんていったら、柳沢さんのほうでこういうの全然関係ないのですか。
- 柳沢委員 何年前かは、公民館の活動はどこかほかの国分寺かどこかで、発表したというのありましたね。国分寺だと思ったのですがね。だからどこかいろいろ地区を回っているのでしょうか。
- 金山委員 まわって東大和に来たのですね。来てるのだと思うのですが、あまり聞かなかったですね。回っていても。
- 佐伯課長 これですけど、公民館長のほうには確認は取ってきていないのですが、主催が東京都公民館連絡協議会というところが主催で、今回会場の輪番制というのですか、そういうブロックなのかちょっとあれですけど、それでうちの東大和の中央公民館が会場となったと理解して、あとは後援とかには東大和市教育委員会が載ってますよね。
- 荒川議長 あまり連携が取れていない感じはするのですがね。ただ公民館というの社会教育のすごく中心的な機関でもあるし、公民館の事務局はあれでしょ、そこが中心でやっちゃっているのですかね、構成とか講座をやっている人たちが動かしているのですかね、そこがわからないね。
- 國森係長 うちも館長から2週間前にこれを参考までに社会教育委員に渡してって、ただこれ参考までというか内容が社会教育委員のことですよ。ちょっとそのあたり連携取れてなくて申し訳なかったです。
- 金山委員 ここのところは社会教育委員も公民館活動に参加しているからね、こうやって一緒になっているからわかるけど、東大和は全然関係ないもんね、だからどうなんだろう。
- 荒川議長 こうみんかんだよりなんかの活動は良くやっていると思うのですが、広い連携という

のはあまり取れていないのですね。公運審があるでしょ、あれもこれ絡んでいるのですかね。

○國森係長 絡んでそうですよね。公運審は。公運審が中心というか、あれになっているのですかね。

○荒川議長 公運審の役割というのはどういうあれなのですかね。

○金山委員 公民館の研究だから。

○荒川議長 公民館は行政組織でしょ、公民館は課でしょ。公民館で事業している団体がありますよね、あれは自主団体でしょ。公運審というのはどういう役割なのですか。施設の使い方なんかも決まりを作ったり、研究したりしているのですかね。柳沢さん。

○柳沢委員 どちらかという苦情とか、意見とか。

○荒川議長 意見も吸い上げて公民館に伝えたり、調整したり。

○柳沢委員 各館の代表者が集まり、利用者間の連絡機関、そういうのが主ですね。中には公民館の企画する講座があるのですね。今年はどういう講座をやるうとか。

○荒川議長 それは公運審とは別に。

○柳沢委員 公運審の中にある。どちらかというそういう利用者の懇談会の要素が強いですね。

○荒川議長 ここまではやっていないね、各市との調整がありますものね。これを、輪番で回ってくるのでしょうけど、それを受けるのは公運審がやってるわけで、公民館長がやっているのではない。

○國森係長 事務局だと思います。

○荒川議長 そうだね、そこらへんも課題かもしれませんけどね。

○金山委員 市の職員でありながら行ってるというね。

○荒川議長 東京都公民館連絡協議会というのがありますがね、そこには誰が出席しているのですか。館長さんが出席しているのですかね。公運審の審議会の会長がいるのでしょうけど、そういう人は参加していないのですかね。

○大月副議長 南街公民館の場合はしていないですね。地域の代表とか。どこかの施設を見に行ったり、年間行事でこの間南街公民館では、昔の話ですね、昔の南街地区の、こういう状況だったというのを3人ぐらいを呼んでそういう話をしてもらってますね。年間行事決めて。

○荒川議長 社会教育委員は委員と事務局と両方参加していますよね、ああいうふうにはなっていないのかな。

○國森係長 かもしれないですね。

○外池委員 市には公民館運営審議会というの定期的にやってるのですよね。だからその方は直接関係あるから、手分けして、当日はね、仕事分担しているのではないかなと私、察するのだけど、運営審議会というのを定期的にやっておりますね。メンバーがいてね。

○荒川議長 やるとしたらそこらへんですね。

○外池委員 かなり詰めているのではないかなと思うのだけど。

○大月副議長 元四中の校長先生が確かその審議会入ってますよね。名前忘れちゃった、佐々木先生。

○外池委員 一般市民も傍聴可能だしね、定期的にやってますよ、結構活発に。

○荒川議長 公民館の在り方とかいう大きな構えだったら社会教育の領域にかなり。大きな課題ですかね、これはね。なんかぼやっとしていますけども、いずれね、こういう大きな課題としてどう考えるのだということになるでしょうから、できる人は自由参加のようですから。

○金山委員 参加費1000円いるんじゃない。

○荒川議長 1000円。話題にはして、話し合いをしまして、そこで終わりですかね。

○金山委員 これからの人に来ていただく、これからだんだん一緒になって連携しないといけなくなっ

てくると思う。

○**荒川議長** 資料1についてはそこまでですね。長野大会について感想ありましたら、報告を皆さんにしていただけたらと思いますけど。

○**金山委員** 長野大会はすごかった、すごいとしか言えませんでした。私は長野大会で、今までいろんなところの全大会に出席してきたのですが、ほとんど今までは基調講演のなさる方たちもみんなグローバルと世界的なもので社会教育一緒にやっていく、連携していくというような話ばかりだったのですが、今度初めて私の知らないグローカル。グローカルという言葉が出てきたのですね。その資料の中にも基調講演の先生も書いてらっしゃるグローカルって何かなと思ったら、社会教育と地域との開かれた社会教育をグローカルという、そういうようなこと書いてあると思うのですよね。だから、基調講演の佐藤先生自体は東京大学の名誉教授であって、専門的なことを社会教育を生涯学習そういうことについて、専門的なこともやってらっしゃるのだから、学生時代からそういうことをやってきたという。長野県を基調に自分はそこで学んできたということだったので、本当に立派な先生だなと思って、女性の方だったのですが、もう私たちと全然離れたというか、私の社会教育でやってる、私が東大和市で自分でいろんなことをやってるそういう関係から全然かけ離れた、もう本当に学校教育にしても、公民館活動にしても、社会教育にしても、みんな連携されていて一つのものになってるという感じ。長野というところ。そしてパネリストの先生方も5人も出られたのだけど、みんな大学の先生とか、もうすごい経歴の人ばかりで、自分がそういう社会教育にずっと携わって、就職しながら、そういう生活している。私なんか一介の主婦であるから、何もそういう経験が無いのに、ちょっと社会教育委員としてるので、ただびっくりすることばかりで、女性の方で、県の社会教育委員やってらっしゃるのですが、その方も自分の地域が豊かになって、住みやすい街になりたいというたった一つの願いで、社会教育にそういう自分でいろんなものを立ち上げて今社会教育委員として活動しているという話聞いて、その人の言われたことだけが私と共通する点がいっぱいあったので、一市民としての考え方しかないというかね、そういうことだったと思うのですよね。何かあまりにも、大学の先生たちの活動が本当に素晴らしいのでびっくりしましたね。そういうふう感じたのですが、聞いてきてよかったなと思いましたね。やっぱり聞かなきゃ勉強にならないというか、いってこないと駄目だなと。社会教育委員の活動自体が、長野県は公民館とか地域社会とか学校とか連携されて、一つにみんながなってる。そういう点違うのだなという、さすが教育県だなと思って聞いてきました。

○**大月副議長** 行きにマイクロバス乗って、運転手さん含めて六名と寂しいのと、縦一列でずっとガラガラだったので、ちょっと寂しいなと。そして行く途中、このディスカッションよりも紅葉を期待していたのですがやっぱりこの猛暑だったのか、紅葉が残念ながらあまり色がついていないのが残念だなと思います。ただ、今回の大会スローガンここにありますが、「信州で出会い・ふれあい・学びあい～皆で語ろう地域づくりは人づくり～」と。私はいろいろなボランティア活動しているので、地域づくりは人づくりというのはすごい関心を持ちました。この中で信州は長野県、教育に熱心だなと思ったのはやはり、県の歌ですね。県民の歌、県歌が第一小節を県民の9割が歌えると、そういう話聞いた時に、たまたま私もいとこが諏訪の出身が一人いまして東京に出ているのですが、よく長野のそういう諏訪の話の聞いたりして、この歌の話は聞いてたので、やはり9割の人がそういう関心を持てるのがすごいことだと感じました。調べてみたのですが、この県歌は1900年に教材として歌われたのですね。1968年に県歌として今日まで来ているのだから、118年の歴史があるとすごい歌だなと思いました。やっぱりこれが長野県の教育熱心さに結びついているのだなと感じました。私がさっき言いました地域は町づくり、これの中でまず会場入る前に左側にボランティアのセンター、これはボラ

ンティア市民活動を応援するボランティアセンターというのが設置していて、そこにいろいろな各長野の町の人たちがボランティア活動をしているコーナーがあって、パネルとか立て札とかいろんなあった中で、いくつか時間があつたので皆さん一緒に入られたのですが、入って質問をしました。その中で私はサロン活動一緒にちょっとやっているのでもっと気になったということは、東大和にはないのですが、長野市にはこういうボランティアセンターというセンターがあるのですね。建物があつて、その中に東大和でいうと図書館と公民館と合体したようなそういう憩いの場があつて、中で食事が出来たり、団らんできたり、会議できたり、コピーできたり、印刷できたり、いろんな現代的なメールボックスとかいろいろなものが集約できるそういうコーナーがありますよという説明がありました。これ見ているパンフレットもらってきたのですが、東大和サロン活動いろいろ行っているのですが、やはりこれもサロンの一環だろうなと思って見ていたのですが、東大和はどんどんサロンが30いくつか活動していますが、この長野の国は縁側活動、町の縁側というやつかな。これがはどういうことかという、一軒家のところには例えば机と椅子を置けばそこに人が立ち寄ってお茶飲み、あるいはお話ができますよと、昔の農家の縁側のイメージを現代風にやってそういう活動をしているというところがあるみたいで、町がですね。行きかう人ともとの繋がり合う地域の居場所が作っていると、そんなあれがあつたので、ちょっと関心持ちながら、これが東大和のサロンなのかなと感じました。都会と地方とはちょっと趣が違うのかもしれませんが、人をすごい大事にしている県なのかなという感じを受けました。講演の中でいろんな偉い先生たちが、大学の教授の先生たちがいろいろお話の中でディスカッションしている中で、一番感じたのは2つだけ、私の気持ちの中に記憶に残ったのは、社会教育とは心を育てる教育で、みんなで支えて思いやっけて寄り添って生きていける社会、これが社会教育。社会教育の原点は自分が生きてる場所を見直すと、これが原点ですよという話をされた時に、社会教育って裾野が広くて自分は社会教育で何が社会教育か捉えにくいのですが、これも一つの原点で、それを基に今後の活動の中に活かさればとそんなふう感じたのが今回の大会でした。ちょっとまとまりないのですがそんな感想です。

○荒川議長 私も似たようなところを見て感じましたのは、今回の社会教育決起大会は、福祉、要するに社協ですよ、社会福祉協議会、それと一緒にやっているのですね。なぜ一緒にやっているかという、社会教育と社会福祉が非常に共通性をもっているという捉え方をしているわけですよ。今の縁側なんていうの考えてみると全く社会教育と捉えてもいいし、社会福祉と捉えてもいいかなと思う。昔の我々の古いなかの住宅構造からすると、どこにも縁側があつて、小春日和の時なんかは大体そこでおしんこをつまみながらお年寄りも含めてお茶を飲んで、お互いに愚痴も言ったり励まし合ったりと。そんなのがありふれて意図的に作らなくてもあつたわけですが、それがお互いの人との繋がりを深めて、子育ての悩みだったら社会教育ですよ。お年寄りの居場所として捉えるならばそれは福祉ですよ。まったくもうそこらへんのところが一体になって進めていることが理想的なんだろうなとそんなことを具体例として発表されているの見てきたわけです。まさにこれ大和で言えばサロンだよなという、発表とかそのブースに張り付いている人がサロンとはちょっと違うのですというようなニュアンスで言ってますけどね、それは感覚の違いだと私は思います。サロンというのちょっとしゃれたコーヒーでもそんなイメージを持たれたのだと思いますけれども、そういうことを今だっけてやっけてるわけではないのでね、普通の昔の縁側、ただ縁側がなくなっちゃったから、公共の場なんかを使ったりしてやっけてるだけで、サロンなんてしゃれた名前を付けてるだけで、あれは縁側と言えれば縁側なんでそんなふうに思いました。非常に社会教育と社会福祉というのは非常に近い関係にあるなということを感じました。

社会教育の狙いとか目的は、心という話も出ましたけどやっぱり人なんですよ。豊かな町づくり

をするということを今回の研究協議の中でも言ってるのですが、そうすると非常に領域は広いわけですよ。市政の全てがそれに向かっていってもいいと思われるから、豊かな町づくりをする、で、役所をやらせる、じゃないのですよ。社会教育というのは。そういうことからして豊かな町づくりをする人を育てる。人を育てるのが社会教育だ。そんな講演もありました。そのとおりでと思うのですね。社会教育がなぜ社会教育として価値を持つかという、そういう人づくりをするのだ。行政はそこまでは踏み込めない。道路作ったりね、バリアフリーを作ったりする。そこまではできるけど、人づくりは社会が地域が、そういう心を持った人を育てる。心を育てるといってもいいし、人を育てるといってもいいけども、いずれにしても全てのは人づくり、心づくりなんだと、そのことを感じましたですね、発表の中で。行政に突いてやらせるという姿勢はちょっと感じなかった。下手すると社会教育って行政に何やらせるかということの研究するみたいになっちゃうのです。そういうのじゃない。地域でそういう人を作るにはどうしたらいいのでしょうか、そういう提言をしていかなくちやいけないのだなとそんなことを考えました。

中心になる場所とか、組織とかってやっぱり必要なのですよ。人づくり、人づくりといってもチラシ配れば人が育つわけじゃない。その施設的にも組織的にも人材的にも、必要なものというのはやっぱり長野は公民館だったのですね。先ほどのチラシなんかを見ても、あれはいなかだからできるといったらおしまいなんですよ。長野はあれを社会教育として公民館を充実させるという歴史を100年以上ずっと営々と築いてきたので、それは山だからできる、へき地だからできるというものではない。長野だって開けてますからね。いろんな山あいの集落いっぱいあるとは思いますが、それぞれに公民館を設置して、そこで青年団とか、婦人会とかというのを活発に活動できるように、自分たちもしたし、行政もたぶん支えているのだと思うのです。その拠点としての公民館というのが2000あるとか3000あるという。長野山あいがあるから、ちっちゃい集落がいっぱいありますからね。そういうところに分館がいっぱいあって、文部省の数字には表れない数と言っていましたけども、分館ですからたぶん集計の中に入っていないのしょうけども、市町村の数に3とか5とか分館が全部あるのしょうね。それを大事に育ててきたのは間違いないだろうと思いました。そのブースで全部回ってききましたが、いろんなこと感じますよね。あれは都市部へ来ると、公民館活動は非常に貸会場になっちゃっているわけですよ。公民館そのものが消えていっているわけですよ。統計から見ると年々かなりの数減っている、公民館。何ができていくかという、地域センターというようなああいう組織で、公民館とは名乗っていない、中身は当然違うわけですね。公民館でやる事業と地域センターでやる貸会場とは違う。貸会場はたぶん増えているのですよ、都市部でもね。公民館はどんどん減っている。そういうところに長野の場合は、ある意味ではきちんとした理念をもって今でも頑張っているのだなと思います。社会教育としてはすごいなと思いますね。学校教育のことはよくわかりませんが、ああいう青年団活動とか、そういうのはすごいと感じてきました。

たいへん良い、人数は少なかったですけどね、いい機会を与えていただきありがとうございました。質問等ありましたらお願いします。ないですか。全然違う話ですけど、私この間あきる野の五日市小学校行ってきたのですよ。校長室へ案内されて、校長の名前がもうずっと一番古いのですよ、西多摩の中で青梅が一番大きい、その次ぐらいに五日市のが大きかったですね。町制なんていうのは今のあきる野なんかよりはずっと古いのですよ。前から2番目に校長さんの額が飾ってありますけども、千葉卓三郎が掲げてあるのです。本市の鎌田さんのお墓のところに、仙台の人って書いてあるのです。一番最初に千葉卓三郎のこと書いてあるのですけど、その人が例の五日市憲法の草案ですよ、それをまとめたのですね。鎌田さんのお宅に一番最初に千葉卓三郎の名前刻むぐらいだから、あれ同人だろうかって思っ

ていたのです。私もあきる野に長くいたけど、そこまで調べることもなかったのですが、あの千葉卓三郎が死んだの32ですよ。その前1年ぐらいは病気になって都心へ入院してたのですね、一年ぐらいで死んじゃったのです。その時にまとめたのが五日市憲法です。村の青年たちと憲法草案を夜な夜な勉強会していたわけですよ。まさに社会教育なんですよ。その時の地位は五日市小学校、名前は歓能学校というのですが、小学校制度まだないですね、校長やってたのです。何歳で校長やってたのだろう、死んだのが32で、まとめたのが32ですから、その前ですから20代後半ですよ。まさに青年なんですよ。その前はもちろんその歓能学校の教員やってたのですよ。だからああいう若い人たちが地域の青年を集めて、中心になっているのは見てみると、山の地主とか豪農とかの人たちが集まってはきているのですが、普通の貧しい農民の方が集まってきた。あの五日市の山の中ですからね。このへんと違いますから、山をそれこそ提灯さげて2、30分は最低歩いてこなければ、五日市に出てこれられないですよ。そんなところで、あれだけ社会教育が盛んだったなという、そういう時代があったんだなということ五日市小学校行って感じたのです。その背景は何なのかなと考えると、やっぱりあの時代神奈川県ですからね。ここも神奈川でしょたぶん、横浜へ通ずる便なのですよ。都心へ来るよりも横浜のほうがたぶん近いぐらい南武線ルートですよ。中央線ルートでなくて。そういう文化がああ山の中を刺激したのだろうなと思って。五日市憲法は条項が220とか30とかね、204ですか。膨大なる量なのです。その中で人権規定が3分の2、160とか70とか言っていましたね。今の憲法に近いのです。人権規定というのは言論の自由とか、結社の自由とか、人間はこれを自由にやって生きることができるという、憲法の制定の主旨というのは人権を守ることですからね。統治側の権力をいかに、制限するかというのが憲法を定める理由で、それが無かったら自由におかされちゃうというのが前提ですから、それを3分の2ぐらい人権規定を持っている。それを夜な夜な山深いところで議論して、案としてはちゃんと正文にして、日の目は見なかったですけど、残っていて、それを地元の人が発見して世界に広めていった。美智子さんまでそれに触れているわけですよ、素晴らしいものがありますということ。見つけた人も新井さんという人で、ここによく来ますよね。あの方は歴研の先生をやったり、最後専修大学ですかね、教授になった方です。あの奥さん知っているのですよ。教員で小学校の教員で、養護教諭やってた方です。素晴らしい先生なのです。そんな関係で知っているのですけど、あの新井さんという人が五日市のまた山奥の深沢部落のところで、崩れかけた土蔵から草稿を見つけて、世に出たのです。要するにああいう地域の青年たちが、生き生きと夜な夜な天下国家を論じていたのだなと思うと、これは社会教育って大事なことなんだなと、長野を見ながらつくづく感じましたですね。そういう流れが、要するに三多摩の社会教育というのは東京全体と比べたら、今は知りませんがかつては進んでいたわけですよ。三多摩の社会教育は進んでいた。公民館運動なんかうんと進んでいたのです。それがずっと戦後自由民権運動とか、そういう流れですからね。憲法制定運動、板垣退助とかああいう連中なんかと一緒にやってたわけではないと思いますけど流れは同じですよ。その流れは戦前の三多摩壮士という、ちょっとやくざっぽい政治家ですよ。そういう連中を生み出して行って、戦前も三多摩から政治家がいっぱい出ているし、戦後は社会党が強かったというのはあの流れなのです。たぶんね。三多摩強かったでしょう。今はもうちょっと見る影ありませんけど。そういう点で公民館運動というのも変に勘繰られるところがたぶんあるでしょうけども、あの五日市憲法というのは、やっぱり青年団活動とか、地域活動とかという勉強会を、非常に意義あったものだとすることを認めさせた一つの成果ですよ。だからそれを消しちゃっていいのかということですよ。社会教育としてね、やっぱり完成じゃない。地域からできたそういう学習というのは大事なものだ。権力から見ればなんか煙たい存在でもあるんだろうと思いますけども、それはそれで意味もあるのだ。べたっとくっついて、官から言わ

れたことを普及させるだけではだめなんだ、下から本当に立ち上げなければ本当の民主主義というのは成り立たないんだ、たぶんそういう流れになるんだろうと思うのですね。社会教育というのはなかなか行政にとって扱いづらい領域だとは思っただけでも、そこは土像を持ってワンクッションおいて、人づくりに力を貸していくと、そういう意味があるのかなと、感想で思っているところでございます。

○外池委員 話は違うんですけどもう1か月もなりますかね、10月21日に第2ブロックの研修会国立の公民館でありました。あの時に障害のある人が積極的に参加して一体となってサロンかな、カフェみたいなものやってる。その運営委員でメンバーになった人が文部科学省に出向しているということで資料があって、やっぱり行政社会の中で福祉だとか社会教育とか縦割りではなくてね、本当にこれから一体となってということがちょっと東大和市は少し私こう見ててね、そのへんどうなのかなというね。国立なんかは、積極的にこういうのやってるのかもしれないけども、縦割りではなくて一体となると。この前日曜日に福祉祭でしたっけ、いろんな分野の人たちが参加していると、そういうふうに一体となっているということがこれからの大きな課題なのかな。これは社会教育、これは障害福祉とか、そういうふうに線を引くのではなくてね、そんな感じはしましたね。誰でも、障害のある人でも、お年寄りでも、子どもたちでも本当にその人たちの幸せというのかな、充実感というか、どういうふうに行っていくかということが、仕向けていくことが大事なのかと思いました。

○金山委員 あの時に井口さんという社会福祉協議会の井口さんでしょ、このあの方ね。私の隣にいらっやって、東大和の社会福祉協議会と社会教育委員と接点がなくて私は何もわからないから、今日発言ができませんと言ったら、東大和は中央公民館でちゃんとそういう福祉の関係の人たちが中央公民館と一緒にやってなんかやっていますよと言われたのです。そんなの聞いたこともないし、知らないし、私も黙って聞いてたのですが、ああそうですかしかな言えなくて、知らなかったのですね。そういうのちょっとおっしゃったので、私たちの知らないことが、やっぱりいっぱいあるじゃないかと。東大和は社会教育委員でありながら、そういう活動しているのも知らないというか、なんか情けないなと思って私も聞いてきました。

○外池委員 私も社会教育委員だけでも、健康づくりのほうで代表で出ているわけですけどもね、やっぱり幅が広いのだなということをつくづく感じる、そういうところに出るとね、思うのです。

○金山委員 教育長にも言ったのですが、教育委員は、いろんな行事に出たり、いろんなこととして、挨拶したり卒業式、入学式の挨拶したり、予算を決めたり、いろんなことあって、何かあった時には必ず学校の問題、子どもの問題も出た場合は教育委員でそれはできるけど、社会教育委員って幅が広くて何していいか、私わからなくて、今10年間で終わっちゃうのだけど、何してきたのかなと。一つも自分で社会教育委員として、残せるものって、自分が勉強しただけ、知らないことを知っただけしかないというので、この間もちょっと教育長と話したのです。予算にしても、こういう予算が足りないからとか、各部署の社会教育でやっている予算も、みんな教育委員会で出来上がったものを私たちが報告されているしね。それからよく私も言うのです。社会福祉協議会と社会教育委員とか、そういう人たちの一緒になってやらなきゃならないのですよと言われていても、全然それもやられていない。まず私たち地域に住んでいても、私が社会教育委員だということも知らない。そしてよく民生委員さんと私も話するのですが、地域の人は実際民生委員さんも知らない。この間の市報に、はじめて100周年になりましたというのでパンフレットみたいのが民生委員さんの名前が全部出たのですよ。それを見てはじめてこんな渡されたなというね。今まで何十年いてもそういう顔と写真と一緒にあったの見たこともなかったですからね。私たちにしてもそうですよね。社会教育委員だからというので、紹介されたことも、体育祭とかああいうところでは紹介されるけども、名称としてあげていくところがないですものね。社

会教育委員の金山幸子ですというところが全然ないですから、全然近所の人も知らないですし、だから社会教育委員でありながら、何してきたのかなと今考えているところです。余計なこと言いましたけど。

○荒川議長 社会教育委員は社会教育に係ることは何でもいいのですよ。

○金山委員 そう、みんなが社会教育だから結局そうなっちゃうのです。

○荒川議長 自分で決めないことには動かないですよ。

○金山委員 そうすると範囲が広いから私に一介の主婦じゃだめだなど、やっぱりこういう経歴のある勉強してこられた方がいいのかななんて思って。

○荒川議長 そんなことはない。

○金山委員 だからいろんなことを社会教育委員になって教えてもらったというかね。その前は保護司やって、保護司やってはじめてそういう対象者からそういういろんなこと聞いて勉強していく、それは一つ、私の宝になっているのですけど。

○外池委員 何かとても心が通い合っているなとね、そういうことそういう他の地域に行って聞くと感じるのですよね。東大和どうかなって。形ではなくて心が通い合ってる。

○荒川議長 やっていることはいっぱいやってるよね。チラシで見るとよくやってるよね。

○金山委員 私はまだ自分自身はいいのは、社会福祉協議委員もやってるのですよ。だからちょっと関連してきているかなとも思って、今ちょうど社会福祉協議委員もやってるのでしょ、大月さんも最近ね、私も長いのですけど。そういうところから一緒にやっていかなきゃいけないのだけど、この頃疎遠になってきましたよね。なお、だんだん月に1回会議開いていたのが段々やらなくなって。

○荒川議長 発言の無い方一言どうぞ。森脇さん。

○金山委員 今の方、最後だから何してきたのかなと思って。

○森脇委員 今のお話の流れの話だと、私この間国立の研修会出させていただきまして、とても理想的な活動しているなと感じたのですけども、ずっと聞きながら、東大和で何かを取り入れるとしたらどういことができるだろうと思いつつ聞いていたのですけど、ちょっと思いつくことができませんでした。難しいなと思ったのは、国立市ではやはりその学芸大とか、一橋大学とか、そういったところで社会学を学んでいる学生が来やすい場所にあって、東大和はちょっとそういう大学がそばにはない。常にそのスタッフが入れ替わり来るような、そういう土壌がないので、取り入れるのは難しいなと思いつつながら、聞いていたのですけれども、でもそういう国立市であっても聞いてみるとそれほど知名度はなくて、コーヒーハウスという取り組みをしているのですけど、その取り組みを市民がどのくらい知っているかというとは実はそんなに知られていなくて、利用している障害者の方も、それほどその中でも知名度がない。ああやって素晴らしい活動をしている、なかなかそれが市全体が知っているようなことというのは、なかなか無いのだなと感じました。あと、すみません、全然違う話なのですけども、この間から話している子どもの安全の話ってしていいですか。

○荒川議長 どうぞ、自由に。

○森脇委員 子どもの安全ということでちょっと気になったことがあるのですが、私、他の市の図書館で働いてまして、その図書館で回覧が回ってきて、その回覧に不登校の子どもへの対応についてという題だったのですけども、すごく簡単に書いてあるのだけでも、要するに図書館の中で昼間、学校のある時間帯に小学生、中学生と思われる子供がいても、声をかけないでくださいというそういうのを記入した。要するに今日学校どうしたのか、うっかり聞いてしまうと、子供が咎められたと思って来なくなってしまうと困るから消極的な対応ではあるけれども、そっとしておいてくださいというそういうことだったのですね。本当はすごくいい声掛けができればいいと思うのですけれども、声かけないで下

さいと。東大和ではそういう対応ってあるのかなと。どんなふうに行っているのかしらとちょっと思いました。お聞きしたいなと思いました。

○荒川議長 それは町の中ですか、図書館の中ですか。

○森脇委員 図書館の、図書館職員への願いです。実際、いるのですね、よく来る子がいて、だからそっとしているのですけど。

○外池委員 なんでこの時間にここにいるのと聞いたりする人がいますよね。学校どうしたのとか、それは傷つけますよ、本当。

○佐伯課長 図書館の職員の状況というのはわかりませんが、やはり図書館を利用してもらいたいという観点からですけど、レファレンス室でしたっけ、あそこを夏休みとかの期間に、勉強、家庭学習ではなくて、そこへ足を運んで、勉強してくださいとか、使ってくださいというような開放を試みてるというのが、ちょっと話が違ふのかもしれないですけど、やるようにしてどうぞお使いくださいということで、PRの問題もあるのですけどなかなかその利用率が高まらないということで、そういうところはどうぞお使いくださいというな接点はありますが、それ以外はちょっと確認していないのでなんとも言えないのですけれど。

○荒川議長 普通学校が開いている時間に図書室へ来るような子はまあ真面目な子でしょうけどね。ふらふらと遊び歩いている子に声かけないのもまた逆の意味で問題があるから、そこらへんが正に声掛けできる人材を育てないと、うかつに声かけちゃだめですよ、散々悪いことしている子に黙っているのもだめですよという難しさありますよね。参考にはなるから今後の研究に役立てていかないかね、そういうのね。

○大月副議長 今、子どもの話が出たので、小学生じゃないのですけど5歳の女の子の話なのですけど、つい2、3日前かな、金曜日の日だったかな。うちのそば郵便局あるのですけど、その駐輪場から女の子の泣き声が聞こえてきまして、泣いているのは気にしなかったのですけど、ずっと泣いて泣き止まないのですね。何があったのかなと思って気になったので出ていったのですね、近所の人も出てきました。そばに行ってみてたのですけど、どういふので泣いているのかよくわからない。お母さんは自転車に乗せようとするのだけど、乗らないのですね、いやだといってひっくり返っちゃうのですね。最初はまあいいやと思って家に帰ったのですね、何も声かけないで。ところがまだ泣いているのでちょっと気になったので、うちの子どもをあやすの得意なので、悪いけどちょっと一緒に外出してくれないかとちょっと出て、そばに行ってみてたのですけど、どうもよく聞いてると、郵便局の中にあるシールを買ってくれと。それを買っちゃうと子供を甘やかす形になるので、買っちゃうと次の時にまた同じようなことやられるので、それをお母さんは頑なに守って、今回は買ってあげないと決めたみたいで、ところが子どもは買っての一点張りで、自転車乗らなくて、近いのですかと聞いたら、いやあ自転車乗っていかないといけないというので押し問答やっていたのですけど、そこへ年配の女性の方が通って、つい口を出したのですね。そんなに泣かせていないでおばさんがお菓子を買ってあげるから、泣き止ませないと。それを聞いて申し訳ないけど今お母さんの方針がこうなので、そのお菓子を買って与えるのはやめてくれと、私は私なりに言ったのですけど、それじゃ可哀そうだと。私は子供一人育てたので、やはり買ってあげなくちゃいけないということで、やってたのですけど、やめてくださいと。結局、最後うちのがちょっとお母さんどこか隠れてみてくれませんか、帰っちゃうと。ところが子どもは追っかけようとして、立ったのですけどひっくり返っちゃうのですね。これ以上泣かせているとたぶんひきつけを起こすから、うちのがお母さんに今回は折れて、そのシールを買ってあげてくれますかと。そして今これ以上泣かすと子どもは完全にひきつけを間違ひなく起こすから、やめた方がいいということで、

結局お母さんおれてシールを買いました。買って子どもは自転車乗ってニコニコしながら帰っていったのですけどね。すごい根性のある女の子だなど。ここまで何十分間かな、泣き叫んで、ついに自分の意思を通させちゃったのですけどね。それが良かったのかどうか、そのお母さんもすごいお母さんだなど。しっかりそういう考えをもって、買わないと決めて、これ買っちゃうとずっとこれやられるからというので攻防やってたのですけどね、結局おれたのですけど、その買って与えたほうがいいのかどうかわからないのと、それから横から口を出した年配の女性の方、これはこれでまた可哀そうだと思って、自分のポケットマネーでも出して菓子を買ってやってあげようというこういう局面があったのですよね、うーん難しいなど。どの人がどれが正しかったのかとちょっと考えさせられました。ふつう泣いててもすぐ泣き止むのですけどね、あそこまで頑固にひっくり返っちゃってましたね。頭打っちゃいますのでね、コンクリートに横に寝っ転がっちゃいましたのでね。ものすごい子だなど思いましたけれど、こんな事件がありました。ちょっとこんな例もあるのだなど。

あともう一点前も言いましたけど、学校小学生が下校する時に、アナウンスありますよね、ただいまから子どもたちが帰るので、下校しますので、地域の皆さんどうぞ見守ってくださいと。いつも前から言っているように、今日は学校の公開日が先日あったので今日はお休み、二小はお休みなのに、そういうアナウンス、地域の人が出て見守ってくださいと。あれ聞いてると、ただやってるぞ。そういうアナウンスを行政としてやってるぞというアナウンスで、本当に子どものことを思っているアナウンスじゃないですよ。予算がないので、その放送は全市が一斉の同じアナウンスなんですけど、せめて地域的に、あるいは流しても二小は今日はお休みですので迎えに出なくて結構ですとかそういう話をアナウンスで出さないと、いつもお題目的にそういうアナウンス、これすごい、子どもの安全というの見守るためには、やはり改善しなくちゃいけないと思うのです。すごい大事な事だなど思いますね。お休みの時、今日は子どもたちがみんなどこか行っても、必ずそういうアナウンスが同じように流れていますよね。これは予算が無いでかたづけられる問題じゃないと思うのですね。この子どもたちの安全守るために、声高々にしてやっていかなきゃいけない。これがどうやって行かなきゃいけないのか私もよくわからないのですけど、機会があって懇談会があるのであれば、そういう中でもアナウンスしていこうかなと思っています。

○荒川議長 そういう多少金のかかりそうなことは、書かなければいけないから。今の大事な仕事ですよ。あれいくつかのブロックになっているのですか。全く一斉なのですか。

○國森係長 だと思えます。

○荒川議長 分ければ小さいスピーカーで、何箇所か分けるという手数とか、金とかかかるわけですよ。それは、金に変えられない人命だということであれば、考えてもらわなければいけないです。

○大月副議長 予算がないのではなくて、予算取りして積み立てやっておく必要があると思うのです。今すぐ、来年はできないまでも、今期はこれだけ、今期はこれだけという積み立てやっ、そして購入するというスタンスとらないと。いきなり、はいでは来期でどうのというのはできないと思うのです。すごい大事な子どもの安全に、これだけ騒がれている中で大事な事だと思うのです。地域住民みんなもう何かマンネリ化になってしまって誰も出なくなってしまう。

○荒川議長 威圧効果だけは、今のところ狙っているのです。やっているんだぞと言って。

○大月副議長 全然アナウンスしないよりは、いいですけどね。

○荒川議長 杉本さん何かありますか。

○杉本委員 まだ頭の中でまとまらないのですけど、先ほど長野のお話を聞かせてもらって言われたことで、公民館がサロンと縁側ですか。こういうサロンと縁側というのは、確かにイメージ的に考えまし

て、逆に我々の研究テーマに繋がる防犯、それから防災、子どもからお年寄りまでのという関連した形で、こういうサロンとか、縁側の、そういうシステムというか、形と言いますか、似たようなものでもいいのですが、そういったものが各地域で、ぼつぼつと出てくれば、それが街の見回り、防犯、子どもに対する下校時の見回りとか、そういうものに繋がってくる可能性があるのだというふうには、今お話を聞かせていただいて、研究テーマにそういった繋がりがあるのではないかなと感じました。だから、今ある公民館というのが、おっしゃったように、なかなか公民館としての役割と言いますか、そういったものがどんどん減って行って、ほかの市民センター的な形に様変わりしていくという、これは流れかもしれません。だったら、この市民センターをそういうサロンとか、縁側運動と言いますか、そういったものに関連するような形でリードしていければ、それがその地域地域の防犯、防災などにも繋がってくるのかなと。お年寄りなども来やすい。子どもが、例えば家帰って鍵がかかっている、親がいない、保護者がいないという時に、今学童保育とか、そういったところがカバーする手もありますけども、それ以外で、そういうところへも行きたくないというような子ども、自分と友だちとで何か遊びたいとか、そういう子どもの遊ぶ場というか、そういう子どもたちが一時的に避難するような、時間稼ぎをするような場に、公民館とか、そういったものをサロン・縁側システムに持っていければ、まだまだこれはもちろんずっと高い目標で、今すぐできるというものではないと思いますけれども、長野などはそういうことで、100何年ですか、それだけの歴史を積み重ねて出来上がってきた組織ですから、それをいきなりぽんと作るということは難しいかもしれませんが、何かそういうモデル的なものとしておいて、そういうものに向かって活動したり、提案したりということが出来るかなということを感じました。

○荒川議長 さっき森脇さんが、最初に触れた国立のコーヒーハウスというのは、大通りに面した半地下の要するに喫茶室なのです。それは、障害のある子どもだけではなくて、大人も含めて、そういうサービスを提供しながら社会訓練をしているのです。それが狙いなのです。営業はしているのだけでも、要するに収益を目的としていない。いろいろ障害のある青年たちがサービスをして接客をして、そこで自分の自己教育をしているのです。そのポイントというのは、素晴らしい立地条件なのにも関わらず営業収益はあまり上がっていない、原価も出ないのではないかなと思っているのですが、その秘訣はその施設を教育委員会が管理しているのです。教育委員会が、全体の施設の名称は、地域センターか何かになっているのですかね。

○佐伯課長 公民館ですね。

○荒川議長 公民館ですかね。少なくともそのワンフロア結構広いのです。厨房があって、客席も結構広い。だから、教育委員会がやるから、障害者の人の社会訓練みたいなものができるのであって、あれが例えば、ほかの公民館とかなんかでやると、あれは多分許されない。場所は貸すけども、それ以上の教育訓練というのは、多分できないのだろうと思うのです。かなり苦労はあるのだそうです。後ろのバックヤードとか、教育的な分野はあるのだけど、あれは社会教育が管理していて、そういう団体も育てて、障害がある青年たちが、そういう職を訓練教育みたいなことがやれるという、それが秘訣だったと思います。今の話と関係つきますよね。ほかの場所借りては、あれができないということです。貸してやりますよ、うちでもやっていますよと言っても、多分性格が違うのだと思うのです、東大和でやってもまたね。柳沢さん、何かありましたら。

○柳沢委員 さっき出た連携という点で、特に社会教育というのは、公民館活動などとは、非常に密接な関係があるのですが、やはり公民館とか、それからさっき出た社会福祉協議会とか、そういった機関とかとの連携が、やはりない、薄いというか、そういう感じがします。やはりこれは、社会教育委員といっても知名度がないとか、いろいろありますけども、そういうこともあると思うのです。これはもち

ろん我々も積極的に突っ込んでいかなければいけないというところもあるのですが、やはりそれは薄いのではないかなと。これもひとつそうなのですけど、何年か前に公民館活動の中でのテーマが2つか、3つ発表したのです、国分寺で。その時も思ったのですが、その時もこちらには連絡なくて、ほかの伝手で回ってきたということもあって、どうしてもそこは薄いから、これから何とかしていかなければいけないのではないかなと思いました。それから、今回の今年のテーマに関しては、やはり社会福祉協議会などと情報交換というか、我々も知らないところがいっぱい持っていると思うので、連携も必要なのではないかなと思いました。

それともうひとつ、10月の終わりに喜多方市に行ってきたのです。文化交流ということで、課長と一緒にいたのですが、あそこ大和町というのは、人口が3,200人なのです。だから、高齢化、それから人口の減少ということで、非常に過疎化と言いますか、悩みが多いのですが、やはり文化祭などやられると、やはり小さな街で、少ない街ですから、皆さんが集まって非常に盛り上がるのです。だから、小さいなら小さいなりのメリットというのがあって、おそらく町民は、顔を見れば誰だかわかるのではないかなと、それ位コンパクトだけでも、社会教育という観点ではやりやすいというか、そういう街なのではないかなと感じました。

それともうひとつ、この研究テーマのことで、なかなか考えてもいい案が出てきません。ただひとつ、高齢化ということで、私の知り合いもスクールガードでしたか、朝交差点に立って、子どもの見守りというのを交代でやっているのですが、やはりああいうことはお年寄りでもできるわけです。お年寄りもどんどん多くなっていくし、暇な人もたくさんいらっしゃるの、やはりそういう力を使っていくとか、利用していくということが重要なのではないかと感じます。それでだけど、実際運用というのがどうしているのかわからないです。学校側がそういう人たちを集めてやっているのではないのです。

○金山委員 ないです、全然。スクールガードという組織は教育委員会の中にあるのですが、それに参加しているのは自分でボランティアとして入っている。

○柳沢委員 けどやはりまとめる人がいるのではないかなと思うのです。まとめるリーダーみたいな人が。そういう人たちが、私はちょっと病気で行けないとかという時に変われる人を入れるとか、地区割りとか、そういうまとめる人が必ずいるので、やはりそういう人たちが重要だなということと、学校側が、やはり情報提供と言いますか、でも学校の何か催しには招待するとか、そういうこともやっているようですけどね。やはり学校側もそういう協力していただいた方には、やはりそれなりの対応をしてくれたらいいのではないかなという。高齢者を積極的に使っていくということは、重要ではないかなと思います。

○金山委員 健康にもいいですよ、朝早いから。

○柳沢委員 子どもにも顔覚えられますから。今、私などは通学途中の子に声をかけたら、不審な人だと思われてしまいますから。顔知らないからね。やはり、そういう点でも、子どもと関わり合うと、私の知り合いなどを見ていると気楽に話もできるし。

○金山委員 7時から8時半まで1時間半やっています。学校の落ち葉がすごいから、校門の前、あそこはちょうど交番があって、歩道橋があるから掃かないわけにはいかないですよ。みんな通るから、自転車。雨降ったら余計掃かないと滑ってしまったり、子どもたちが下りてくる時。今、掃除していますから太ってきました。

○柳沢委員 その程度しか。

○荒川議長 今のお話で、次の研究テーマへ移りますけども、今の話というのは、まず取っ掛かりだと思えます。要するにイメージは、子どもとある意味ではお年寄り、本当は体の不自由な人とかも含める

べきだけど、あまり手を広げると。とりあえずは、子どもだけではなくて、お年寄りも。その社会的弱者ですよ。その対象を誰が守っているかという組織は、どんなのがあるか。子どもと大人は当然違いますから、多分2つの大きなブロックで。例えば見守り隊子ども、お年寄りの見守り隊は、いるかどうか知らないですけど、直接はやっていませんよね。お年寄りの見守り隊は、いるかもしれませんが、要するにわからない。その2つをいろいろな組織がどういうふうに関わっているのだと。その運用はどうなっているのだ。連携はどうなっているのだと。それをまず明らかにしないと、多分役所でも部署は知っていると思う、担当部署は。総体として、関わる部署は多分ないのではないかなと思って。だからそれは、両方繋がっていますよ、自発的だということもあるけど、よその学校行くと全然繋がってませんよということになってしまうかもしれない。それを洗い出してみましょ。内部運営は、どうなっていますか。全くのボランティアで、誰も責任者も何もいません。それだっていいわけですよ、ボランティアは。一向に構わない。だけど、多少学校は関わっていますよ。学期に1回とか、1年に1回とか、顔合わせはやってますよと。そういうのも明らかにしていけないと、どういうふうに、この点検表を作って子どもとお年寄りの安心、安全守るかというのは出てこないから、まず、それを洗い出してみてもいいですかね。それで足りないもの、こういうふうにしたほうがいいのではないかというものがあれば、それは別に論じていく。多分それで見えてくると思うんですけども、そこらへんどうですか。洗い出すなど多分地域差があると思うから、一筋縄では、今みたいな2つの問題ではないかもしれない。あるところ、ないところ、やり方がわかっていないところ、多分出てくるのだと思うのです。そうすると、全市を網羅してみるとか、不可能ですから、それぞれ地域の人たちが、役所は役所でこういうことやっていますよということを聞きとる。社協は社協でやっているということを見る。この間、登下校メールシステムという、これが入ったという話出ましたけど、これ申込制で有料なのですね。全部、個人個人でうちはいりませんと言うと、そういうところは出さなくていいのです。学校に入る時、タッチするとか何とか言っていましたけれども、そういうのもひとつの手段ですよ。これカードだもん。これでタッチすればいいのですよね。

○金山委員 そうです。それなのです。私が知っているの、それなのです。

○荒川議長 1555円。

○金山委員 希望者だけなのです。全体全部というわけではないのです。

○荒川議長 全学校やっているのか。

○金山委員 全学校やっています、小学校は。

○荒川委員 子どもは入らない子もいると。

○金山委員 そこでない、入らなくてもいいという人は入っていないです。全部ではないです。

○荒川議長 年間1555円。こういうのが必要だろうけど、命に変えられないから。買いなさいと呼びかけるか。

○金山委員 子どもがおばさんとこういうの持っているのだと見せてくれて、初めてわかった。そういうのもあるということも。

○大月副議長 この間、防災訓練の時に我々見ましたね。これ何だと質問したら、そうですね。

○荒川議長 これですか。

○大月副議長 はい、二小は、防災訓練の中で、これは何ぞやと。入り口に、正面玄関入ったところに機械があったので、これ何ですかという質問の中で、タッチすると学校に入校しましたという。

○柳沢委員 家にも連絡がいくのですか。家庭にも連絡がいくの。

○大月副議長 ご家庭というか、メールする方、携帯保護者とか。

○柳沢委員 携帯、スマホとかね。

○大月副議長 はい。

○金山委員 やはり帰れば下校したというので、時間がついて、親のところへ連絡が行くのです。だから学校にいないということがわかる。

○荒川議長 教育委員会と学校と親は知っているけど、地域はまだ知らないから今みたいなことになってしまうわけですよね。こんなに良いのだったら知らせろということですよね。

○金山委員 そういうのを持っているということも知らない。

○大月副議長 インフラというか全校。

○荒川議長 本当に必要ならね。コンピューターになってしまう。

○大月副議長 準備委員として考えても良いのではないかなと、私は思ってしまう。

○金山委員 小学校だけです。中学校はそんなの関係ない。

○荒川議長 それは検討しなければいけませんけど。中学校が持ってないことを知らないわけですから。

○金山委員 それも知らないし。

○柳沢委員 お金がかかるんだ。そんな話はでなかったです。

○荒川議長 そういうのを全部洗いだしながら、欠けているものはあるか、連携は密にする必要はあるか。

○金山委員 学校と生徒に関わることを、何かいろいろものがまだいろいろあるのだけど、そういうものを出していけばいいのかなと思ったり。

○荒川議長 スクールガードは、今お話しあったように、学校は把握していないケースもあるのですかね。全く自由に自発的にやっているというのもあり得るでしょう。悪いことやっている訳ではないから。

○大月副議長 だいたい把握していると思います。二小などは、スクールガードは、例えば入学とか、卒業式は来賓の中で一番上のほうです。上のほうというのは、議員の次くらいにスクールガードが入っています。だから、それだけ重きを置いています。子どもたちを守っている訳ですから。このスクールガードというのは、私も要請が来たことありますけど、断りました。これは、多分朝と帰り、時間が決められて、その時間、雨だろうが雪だろうが台風だろうが、それをやるというのは、ものすごいパワーかかると思うのです。

○荒川議長 それは、義務はないでしょう。自分で決めている訳ですよね。

○金山委員 ボランティアですから、自分でやり、全部歩道橋の雪降れば、雪かきも自分で早く行って、先生たちより早めに行って、階段を雪かきしたり、そうすると先生たちは、だいたい7時頃来られるから、校庭、そういうところも雪かきをしてらっしゃいますけども、私は、人よりも先に行ってやっていますから。それもみんなボランティアで。だからうちは、入学式、卒業式、スクールガードの人は来られません、遠慮して。男の人たち。

○大月副議長 招待はあるわけですか。

○金山委員 あるんですけど、みんな遠慮してらっしゃる。

○大月副議長 出てきていますね。

○金山委員 私は、ほかの名目があるから行きますけども。

○荒川議長 そちらのほうが進んでいるとみるか、遅れているとみるか。どちらでもいいと思いますけどね。純粹にボランティアだったら、別に何もなくてもやりますよ。

○金山委員 1年に1回必ずスクールガードをやっているという、そういう署名みたいの書くのですよ。出しているのですけど、1年に1回3月頃に全部集まる会合が1回位あって、その時にその責任者み

たいな人が前の校長先生がやってらっしゃるので、その方のお話を聞いて終わりです。それが1回しかないのです、1年に1回。

○荒川議長 服などどうしているのですか。

○金山委員 何かいただいています。ジャンパーみたいなものとか、きちんとスクールガードと入ったもの。

○荒川議長 ひとつのことだって、これ位のわかる。

○金山委員 冬は、赤いジャンパーをいただいて、長いもの、寒いから。

○荒川議長 また、並列にやることだって考えられないわけありませんよね。

○金山委員 あれは、どういうふうにして選ばれてきている、各学校で、先生が誰かにお願いしているのか。教育委員会で採用しているわけではないものですね、全然ね、そんなの。私たちは、あそこが必要だからと言って、誰か定年なさった旦那さんがいらっしゃったという、友だちの旦那さんに立ってもらえないとか言って、私がお願いしてそこに立ってもらおう。

○大月副議長 登校時に、事故起きましたよね、1回。去年か、一昨年かな。問題になりましたよね、責任問題というのかな。スクールガードがついていて、事故が起きた。

○金山委員 あそこね、五小のところ。

○大月副議長 五小でしたかね。

○荒川議長 保険はどうなっているかという問題にすぐなりますよね。

○金山委員 保険は掛っていると思います。私たちも保険は入っていると思います。

○荒川議長 そういう意味では役所がかかっている。

○金山委員 そこに、スクールガード要員としての登録をしている人は保険に入っている。

○大月副議長 確かスクールガードは責任を負わないという形になりましたよね。じゃないと、誰もスクールガードの引き受け手がなくなってしまいますよね。

○荒川議長 これこの間、東大和の教育委員会だよりで、「学童交通擁護ボランティア・スクールガード（学校安全ボランティア）の募集」。

○杉本委員 これは同じものなのですか。

○荒川議長 これは教育委員会が募集。募集と書いてありますよ。教育委員会で新たにご協力いただける方を探しております。1年通しでなくても結構ですと。教育委員会募集と。

○杉本委員 ただ、スクールガードについては、私はわかりませんが、体育協会ですからいろいろ小学校の水泳の授業でというのも、やはり市報に出るのですよ、募集という。紹介で指導課でしたか。

○國森係長 そうですね、教育指導課。

○杉本委員 なっているのですけれども、私はたまたまそれを見て履歴書を書いて出したのですけれども、ほかの各全10小ありますよね。全部どうしているのですかね。指導課でも把握しきれていない、言い方悪いのですけれども。それぞれ個別に、去年来てくれた人に来年もお願いしますという形で、結果的には、書類はもちろん指導課に回りますけれども、そういう意味で窓口が完全に一本化されていないというか、そういうのを感じました、私の経験ですけれども。

○荒川議長 学校が依頼するのですか、そうすると。

○杉本委員 基本的にはそうです。

○荒川議長 やってみませんか。

○杉本委員 やってられませんかと。

○荒川議長 相手は個人、こちら側は。

○杉本委員 個人で。例えば、仮に水泳協会。水泳協会に依頼が正式にくるかという、こない。あくまで、そういうのでは、おかしいのではないかとということで、私、今、水泳協会に所属していますので、水泳協会のメンバーで、そんなに多くはないですけども、あっちへ行ってくれる、来てくれないという形で、3校位回るとか。

○金山委員 1人で3校もつ。

○杉本委員 いえいえ、3人で。

○金山委員 3人で1校ずつ。

○杉本委員 私も2校掛け持ちしたり、やったこともありましたけれども、そういう形でもう少し全体を統括する、一本化する窓口を作るということが必要ではないかなと。そこに過去来てくれた人というのは、学校が個別でその個人と連絡取るやり方ではなくて。

○金山委員 教育委員会できちんと募集してやらなければならない。

○杉本委員 その人たちに来年もお願いしますという形の案内といえますか、もっと取っていければ、受ける人も、そういう気持ちで。ただ単に副校長から、何小の副校長、校長から言われたから、じゃあどうかな、今年はバイトとかありますからできませんとか、そういう形になってしまうので。だからそのへんも、ほかはわかりません。そういうので、やはりものすごく必要としているのです、人材を。だからそれを何とか解消したいという、学校の希望も要するに非常に大きなものがあるのです。だからそういうのもっと水泳協会だけにこだわらず、やっていって、窓口を一本化したほうがいいのではないかなと思いました。

○荒川議長 一本化した方がすっきりしますけど、ボランティアの本来の精神からしたらかなり外れている、自発的にやるような市に育てるのが理想は理想。

○杉本委員 本来はそうです。今、ボランティアやるより。

○荒川議長 そこが整理をして、現状こうだということを抑えないといけません。

○杉本委員 ボランティアというものに対して、やはり抵抗もあるではないですか、最近。やはり、本当は手弁当というもので。水泳も、今、言いました小学校の水泳指導というものになりますと、市の臨時職員という肩書になります。ですから、時給いわゆる手当がつくのです。それはそれとして、はっきり意義あれば予算とかもできるでしょうし、今もやっていると思うんですけど。そういうただ単に、本当に手弁当でも言ってみれば気持ちに頼る無償、奉仕というものだけに頼っていたのでは、なかなか難しい面があると、わずかなことであっても、やはりそれに対する報酬、そういったものも作り上げていく必要があるのではないかなと思います。

○外池委員 本当に靴代ですけどと言って、些少ですけどと1年に2回位にまとめて、心付けするとか。ボランティアとかということで、それはそうなのだけど、頼り過ぎても駄目だと思います。見守り隊の人と話す、本当に子どもたち、ほとんど全員、覚えています、知っているのです。それで卒業式の時など、いっぱいいますけれども、学校も気を使って、1年に2、3回の授業公開の時に、どうぞ給食を召し上がってくださいとか、来られる方にそういう声をかけたりしているのですけど、なんらかの形で、些少でもいいから参加していくということ。

○荒川議長 ボランティアも、ブラックボランティアみたいなものもありますから、東京など、そこらへん目論んでいるようですけども、やはり何らかの手当ても必要なものもあります。ただ、水泳指導で言いますと、金もらうと、責任は当然問われるのです。純粋なボランティアでないから。指導員は、指導手当だし、金もらうのだったら。同じ指導の中では、安全管理はしないと、そんなことあり得ないですから。当然、過失は問われる。純粋にもらってなければ、純粋なボランティアだから、それは死んで責

任は問われることはないだろうというところも言える。そこが厄介なところなのです。水泳など、特に。交通安全もその類です。子どもが飛び出して、責任問われたら誰もやり手いなくなってしまう。だから、そこは検討しましょう。ゆっくり検討して。なるほうも、それは金もらえば責任問われるのですよ、ということです。難しいです。

○外池委員 安全を保持していくには、やはりお金がかかる、これはしょうがない。命の変わりなのだから。そういうふうには割切らなければいけない。

○杉本委員 私の今申し上げた水泳の場合には、肩書は補助指導員が多い。補助指導員。いわゆる授業の補助をする。だから、あくまで主体が先生なのです。担任の先生とか、その先生の足りないところを補うという役割と言いますか。そういう肩書。補助指導員という形になるのです。

○荒川議長 基本的には、教員ですよ。

○杉本委員 一応、基本の責任という事故。万が一の事故とかの場合の責任は、一応とりませんということにはなっているのですけれども、ただそうはなっている、実際にもし事故が起こった時の親御さん、保護者と言いますか、後々、補助員もいるのだらうと、当然先生だけではないだろうということで、当然こちらに来る可能性も十分ありますから、その意識と言うか、それは必要にはもちろんなってくるのです。かといって、では正式な指導員の資格とか、そういったものがなければ事故が起こって、持っている人がいれば事故が起こらないのかと言ったら、逆なのです。指導員が資格を持っているところに限って事故が起こっているのです、過去でも。学校に限らず一般のスイミングクラブでも。そういうこともありますから、そのへんのところは、グレーゾーン的な面がありますけども。ただ、やはりやる中身に関しては、やはりこれはボランティアも消防士でも無理だなというのは、特にプール指導とか、ほぼ重労働ですから、だからそういうのは、やはり必要だと教育委員会でも市でも考えられているとは思いますが、そういうものであっても、もう少し広報というか、広げて、やはりそれができる方というのが大勢いると思うのです。泳げなくてもいいのです。安全監視という意味では。例えばそれで先生助かりますから。それから見本のお手伝いをするとかというようなことでやればできるのではないかなと。PTAの方とか、今おっしゃったように高齢化していても、比較的自由的な、昼間に時間があって、午前中が中心ですから。日焼とか、そういったものに、いつも抵抗がないような方も、大勢おられると思いますから、そういう方が積極的に集まってくれば、各小学校のいろいろなご苦勞は解消できるのではないかなと。

○荒川議長 そういうのを全部あらいだして、今、虐待とか、しつけだかがよくわからないとかという、電話くださいという声があるでしょう。電話した時に、親に訴えられる可能性だってあるけども、そこらへんはどうなっているのかというの、よく調べて啓発しないと、迂闊に警察に連絡したら、逆に訴えられたってということだってありますから、そこらへんのところも研究をしておく。いじめなどだって、学校だけでは見つかりませんから、家庭、地域で見つける場合があるわけですから、そこらへんの体制はどうなっていると。誰に言えばいいのだと。そういうのも整理していきましょう。これは、啓発活動をきちんとしないと、みんないざとなって考えて、怖くなってしまいますから。整理して、大丈夫ですよ、安心して通報してくださいというのも社会教育の中身です。この老人などの場合、私などよくわかりませんが、多分、見る人が見ればわかるし、見る人ではなければ、見えない人が見たってわからないと思うのです。老人だって、足が痛くなったって、今言ったように動かない老人だっているわけですから、ああいう特殊支援学級の先生だって厳しいですから。一般の教員のほうが余程すぐ助けてしまう。あれ駄目なのです。そこらへんがわからない、なかなか。それもきちんと広報とか、講習会とかしないと、多分、甘やかしたら歩けなくなってしまうのだよということだと思ってしまうのですけど、そこらへん

のところ、大月さんどうですか。

○大月副議長 老人の虐待、私の地域を見ている、いろいろ信じられないこといっぱい起きています。例えば、母親と娘と住んでいて、栄養失調で2人とも救急車騒ぎ。私も自治会に入っているのだけれど、住んでる人が、本当に住んでいるのかどうかわからないような家があるのです。電気がついて、ああ住んでいるんだな。親子ともども具合悪くなって、2人とも水も飲めない状態で、前の家に娘さんが救いを求めて救急車騒ぎで、初めて栄養失調で結局母親は亡くなってしまいました。娘さんが、今1人で住んでいるのですが、そういう実態もあるのです。この世の中で、そんな家があるんだとびっくりしました。私も家の側なので、そこに人が住んでいるということがわからない位、いつも静かで、庭も草ぼうぼうで、ここに人が住んでいないなという位の家があるのです。今はきれいになっていますけど。それから、もっとすごい家があるのですが、南街地区で隣の自治会ですけど、平屋なのですが、こういうふうに屋根に上がるとすると、南側に面した廊下からこちらの瓦、全部陥没してしまって、今こんなになってしまっています。そこに人が住んでいるのです、兄弟で。この北側が、やはり陥没し始めたので、お隣の家から、その隣が元、私が住んでいた家で、今、せがれが住んでいるのですが、その隣の家から電話が入りまして、ちょっと様子見てくれと言われて行きまして、この隣の家から2階から見たのですが、北側がやはり陥没し始めまして、この間24号の台風でシート掛けてあったの飛んでしまって、大変だったみたいなので、ここのご主人と2人で、この間、屋根登って、先月ですけど、手を怪我する前だったのですが、屋根登ってシートを張りました。ブルーシートを1枚張って、助けましたけど。そういう実態の家、家の中、ごみ屋敷です。私も行政にお願いしたのですが、また生活保護、弟さんが働いてその生活で兄貴食わせてもらっているのですが、自分の戸内から雨漏りしても、ごみ屋敷でも生活保護は受けられないです、自分の持家。訴えても駄目なのです。こういう実態。それから年寄りを痴呆で外へ出ていくので、座敷牢みたいに閉じ込めてしまって、鍵かけて間抜きで、そういう家もあったのです。その家のお母さんですか、お婆ちゃん亡くなりましたけど、それも隣の自治会でした。そういうふうに目に見えない、後で聞いてえってというようなことがいっぱいあります。だから、多分これから高齢化して、お金があれば、何とかそういう施設へ送り込むことができるでしょうし、デイサービスとか、ショートとか、送り込むことができると思うのですが、お金がなければ、自分の家で見なくてははいけません。そういう老々介護やっている家、結構あります。通る時に、息子が怒鳴り飛ばしている声が聞こえると、虐待しているのかなと思うと違います。やはり、言うことを聞かないので、声を荒げるのですが、そういうのが間違えて通報されてしまうと虐待ですよ。そういう実態が近所にいくつか案件見えています。これから東大和すごい高齢化、この間、長野の研修の中でも65歳以上がすごい割合で、75歳以上も18. いくつか、パーセンテージいろいろ言っていましたけど、東京都の1, 200万市民で、65歳以上が3人に1人いると、そういう状態の中で、東大和もご多分にもれず高齢化していますので、こういう、今、言ったような虐待。虐待と言うのか、面倒見切れない、これがすごい増えてきているのだなと思います。さっき社会福祉協議会の話出しましたが、ここは活動だけではない、そういうボランティアもそうですし、養介護の人たちの支援とかいろいろやっていますので、社会福祉協議会の担当の人をここに呼べば、そういう、今の活動、どんなことをやられているか、社会福祉協議会の活動の内容的なものを、ここで講演してもらっても、私はいいのかなと思います。私も評議員になっていますけど、評議員って何ですかね。この社会教育委員は、ここで自由に意見述べられて、私は素晴らしいことだと思うのです。議長が振って、どうですかと言うと必ず一言二言皆さんしゃべります。ところが社会福祉協議会、ここは質問したくても、実態が分からないので、質問しようがないのです。議決事項は、みんな異議なしで、みんな異議なしなのです。異議なしって、わかって異議なしな

のか、わからないから異議なしなのか、私は、いつもたまに意義ありと言いたくなって、たまに質問することあるのですが、それでも自分で社会福祉協議会を活動の内容がよくわからないので、質問は出しにくいです。だから、皆さんが異議なしと、何か企業の総会と同じだなと思ってみているのですが、予算組むのでも何でも全部、案件事項全部異議なしで、お題目も決まっています、やって終わらしているのですが、それはいけないことだなと思ってみえています。1回社会福祉協議会の担当係で、講話してもらおうと、いろいろ何をどう活動して、どうやっているか、対応しているかが、見えるかなと思います。

○荒川議長 おもしろいですね。方向性が何となく具体化していきますけれども、次回の内容と日程に移りたいと思います。内容的には。

○國森係長 本来であれば、今回、社会福祉協議会なり、子育て支援の人間をここに来ていただいて、話していただくかと思ったのですが、日程の調整が合わなかったため、次回の12月の会議の時に、社会福祉協議会と子育て支援の担当者から、「子どもとお年寄りの安全、安心」という議題で、今、行政でどんな活動をしているのかということと、あとそれに対する課題はどんなことがあるという内容を、それぞれ約1時間ずつ位しゃべっていただいて、ご質問を受けられるような場を作ろうかと思っていますので、次回の会議はそういう流れにさせていただきたいと思います。以上です。

○荒川議長 今の副議長の話の延長で、その内容の話をさせていただいて、また質問して勉強すると、そんなことでよろしいでしょうか。日程が事務局で都合がありますのでお願いします。

○手塚主事 次回の会議日程でございますが、来月12月第3火曜日にあたる18日が社会教育課で車いすバスケットボールの体験教室と重なっているため、その前後で調整させていただきますでしょうか。

○國森係長 17日月曜日もしくは、20日木曜日で何とか調整ができないかと思ってご提案させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○荒川議長 12月17日月曜日、都合が駄目という方、手を上げていただきますか。1人。12月20日木曜日が駄目という方。よろしいですか。では、次回12月20日木曜日、同じく10時から、そのようにさせていただきたいと思います。その日、大丈夫ですか。学校もいろいろ忙しくなりますかね、おしせまってきて。できるだけ皆さん都合つけてということで、20日木曜日にしました。

本日は、長野の報告から徐々に研究テーマへと移ってきましたけども、方向性はだいたい出てきたかな。今後、具体化していくということで、進めていきたいと思っています。社協と子育て支援と両方、お話しいただきますので、わからないことがあったら質問してください。佐伯先生、内容がわからなかったかと思うのですが、声だけ一言お願いします。

○佐伯委員 申し訳ないです。急な用がありましたので遅れました。PRでもいいですか。

○荒川議長 お願いします。

○佐伯委員 今週の金曜日23日に地域合同防災訓練というのをうちは行います。校庭とそれから体育館使って、9ついろいろな防災体験を子どもたちと地域の方と回るのが午前中行われますので、お時間があれば、ぜひいらしてください。すみません、以上です。

○荒川議長 これ何時から。

○佐伯委員 はい、子どもたちは8時半スタートなんですけれども、実際に回るのは9時少し前位から12時10分までになります。消防も来て、割と大がかりな訓練になります。

○荒川議長 地域防災訓練。

○佐伯委員 地域合同防災訓練。

○荒川議長 のぞくだけでも、時間がありましたら。

○大月副議長 子どもたち、生徒もいっしょに。

○佐伯委員 生徒は、2年生全員。

○大月副議長 2年生。

○佐伯委員 1年生と3年生は、通常の授業をしていて、そこは学校公開しております。

○荒川議長 それでは、副議長、今日のまとめでお願いします。

○大月副議長 今年も、あと1ヶ月ちょっとで終わりなのですが、研究テーマも方向性が見えてきて、また来月、2つの講座受けながら、それをまた参考にしながら、今のを見ていると、いろいろな、例えばスクールガードとか、水泳の指導員とか、いろいろな全部縦割りで、横の連携がないというのが見えてきているので、そういう図式化というのですか、どういう組織があって、どういうものがあるかを列記して、それを繋げる形です。それが大事なのかなと思います。単発では、一生懸命皆さん活動されているので、縦割りを横に繋げるのは、今回の我々の役割かな。そして、子どもたちと老人を守ると。そういう方向性に行くのかなと思います。以上です。

○荒川議長 ありがとうございます。それでは、再度次回12月20日木曜日10時からということになります。ありがとうございます。終わります。